

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 2月 1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473100562		
法人名	医療法人社団林医院		
事業所名	グループホーム蛍の家		
所在地	広島県呉市倉橋町石持154番地1号 (電話) 0823-50-2122		
自己評価作成日	平成29年1月6日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3473100562-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年1月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的で、落ち着いた雰囲気を大切にし、地域の行事に参加したり、季節ごとの行事を行い、季節感を感じていただいております。また、定期的に地元の小学校との交流会の開催や、ボランティアの三味線の演奏会など、多世代の交流を行っております。田舎に立地している分、庭も広く、散歩や、運動、レクリエーションに活用し、畑で野菜作りをしたり、天気・気候の良い日には庭での昼食会を開催しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

商店街から少し離れた所に位置する当事業所は、平屋建てで、ゆったりした敷地内には、併設の小規模多機能事業所「常夏の家」がある。近隣に温泉、食事処、市民センター（図書館が併設）等が立地し、利便性に優れている。建物の外観は和の雰囲気だが、内部に入ると洋風作りで、海が見渡せ、掃除が行き届いている。その上、利用者の寝具類は天気の良い日は常に日に干し、清潔にしてあり、その結果、開設以来、一度もインフルエンザやノロウイルスに感染したことが無い。これらは日頃からの職員の努力の賜物である。運営面に関しても、地域と連携を図り、試行錯誤をしながら、チームケアに積極的に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念・事業所理念を朝礼時に唱和し、職員への徹底を行っている。又、利用者への接し方で、不適切と思われる対応等があった場合、職員間で適宜、指導・改善を行っている。	法人の理念は、「ノーマライゼーション」普通の生活であり、事業所の理念には、「思いやり介護」を掲げている。職員はこの其々の理念に基づき、利用者本位の暮らしが出来る様、チームで見守りながら、日々、支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事へ参加し、積極的に交流するよう努めている。今年度は、保育所の運動会・文化祭への出展等、初めての取り組みを行った。又、清掃活動に参加する等し、近隣の方との交流を行っている。	地域の女性会、民生委員とは、顔見知りが多く、その為、地域で行われる行事によく参加している。ボランティアによるバルーンアート、三味線、歌等も行われ、楽しんでいる。又、地域の文化祭では、利用者全員で作った作品を展示する等、地域としっかり交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事へ参加する場合、事前に担当者や打ち合わせを行い、駐車場や、座席の確保等ご協力いただき、認知症の方が参加する事への理解を頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の方や、ご家族、利用者に対し、実施した行事報告や、話し合いを行い、意見交換し、サービスの向上に努めている。	会議には、毎回、地元の警察署（駐在所）、消防署、小学校校長、市議員と様々な方々が多く出席している。内容はその時期に合った事案を取り入れ、活発に質疑応答を行いながら、毎回サービスの質の向上に努めている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	呉市の担当者の方や、介護相談員と話し合い、助言をいただき、改善に取り組む、より良いサービスの向上に努めている。	年一度、福祉保険課の職員が運営推進会議へ出席している。又、地域包括支援センターの管理者からは、介護保険の仕組み等の助言もある。近隣の市民センターとも、災害対策について意見の交換を行う等、市町との協力関係を築く努力がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職場内研修を行う事で、身体拘束による弊害を理解している。又、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為について、事務所内に掲示している。玄関の施錠も日中は行っておらず、併設の小規模多機能事業所でのレクリエーションに自由に参加したり、散歩を楽しんで頂いている。</p>	<p>職員は平素から身体拘束をしない支援を心掛けており、疑問に思う点はその都度、管理者に質問し、正しく理解しながら、支援に努めている。自傷が有る利用者にも、出来るだけ拘束しないよう心掛け、家族と話し合いながら支援に努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職場内で研修を行い、虐待防止に細心の注意を払っており、利用者の表情・身体状況を常に確認するよう努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職場内で研修を行い、権利擁護に関する制度の理解に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約に当たっては、利用者・ご家族に対し十分な説明を行い、疑問・不安の無いように対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時に、ご家族へ要望・意見・苦情等を伺うようにしている。又、遠方で面会の頻度の少ないご家族へは、定期的に連絡し、要望を伺っている。</p>	<p>利用者からアンケート（口頭も含め）で要望を聞き、要望の多い食事に関する事他、要望を取り入れる等検討し、改善に繋げている。家族からの様々な声も真摯に受け止め、意見の反映に努めながら運営している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者は、日々、職員からの意見や提案を聴くようにしている。又、管理者は、毎週のミーティングにて、代表者に意見や報告を行っている。</p>	<p>管理者は、職員からの意見を常に聴く機会を設けている。最近の事例では、リビングに設置のグランドピアノが使われなくなった為、撤去し、広くなった場所は、利用者のレクリエーションを行う場として活用され、提案が運営に反映されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>勤続年数や、意欲に応じて、資格取得や研修に向けての支援を行い向上心を持って勤務にあたってもらうように努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部研修に参加し、研修で学んだ事の報告会を開催している。又、職員の資格取得に向けた支援も行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>管理者や職員は、外部研修に参加して、質の向上を目指し、意見交換や、情報収集を行い、ケアに活かしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス開始までに、今までの生活歴・経緯などを傾聴し、信頼関係が築けるようにしている。又、要望等も連絡ノートに記載し、職員全員で把握し、情報共有にした上で、支援するようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>本人・ご家族の思いや要望を聴く時間を十分に設け、状況を確認した上で、出来る限りの対応を行っている。又、早急な対応を求めている相談者には、柔軟な対応を心掛けている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>併設している小規模多機能事業所のサービス内容の説明や、その他のサービスについても、説明するよう努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>コミュニケーションを大切にし、利用者の気持ちを理解するように努めることで、家庭生活に近い生活環境の場を築くことができるよう努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族の面会時には、近況を報告したり、ご家族とゆっくり過ごしていただけるように配慮している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>なじみの美容院や、自宅付近のスーパーへ買い物に行き、地元の人と関わりがもてるよう支援している。又、地域行事へ参加することで、知人との出会い・会話を楽しめるよう支援している。</p>	<p>利用者は地元の人が多く、以前からの馴染みの商店等で買い物や会話を楽しみ、関係が途切れない支援がされている。又、事業所の隣にある小規模多機能事業所「常夏の家」や顔馴染みの地域住民と交流し、職員は関係継続の支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲の良い利用者同士の席を近くしたり、お互いの居室を訪問し合う等、関わりがもてるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、利用者・ご家族とのコミュニケーションを大切にし、相談・支援に努めている。入院された場合は、お見舞いに伺ったり、電話による連絡を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意見や資料を検討しながら、本人に合ったライフスタイルを検討している。日々の行動や表情から、思いや意志を理解できるよう心掛けている。	一人ひとりの生活歴や平素の暮らしぶりを参考に、その人に合った生活スタイルを把握し、居心地のよい支援に努めている。例えば、畑仕事が好きな利用者とは、一緒に野菜作りを行うなどしている。また、困難な希望の場合も諦めず、更に希望に沿うよう検討を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴を十分に理解し、今までとあまり変わらない生活ができるように、支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの生活リズムや、ペースを尊重し、体調に考慮しながら、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>担当者会議にて、利用者・ご家族の要望を聴き取り、介護計画を作成している。</p>	<p>担当者会議は、必要な関係者が出席し、利用者、家族の希望を軸に、主治医の意見やモニタリングを基に計画を作成している。担当者は、短期目標をその時の状態に即して細かく見直し、介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の申し送りで、利用者の様子や状態の変化・気づき等を報告している。定期的にミーティングを行い、情報共有し、状態に変化があれば、都度、介護計画の見直しを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ変わるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人や、ご家族の要望に応じた介護計画を作り、柔軟な対応をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者が安心して地域で暮らし続けられるように、運営推進会議等で意見を聞き、支援している。また、地元の小学校と交流するなど、地域との交流を楽しんでいただいている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>母体法人の医療機関からの往診・訪問看護との連携により、適切な医療が受けられるよう支援している。又、かかりつけ医への定期受診は、ご家族に通院介助をお願いしているが、無理な場合は、施設職員による通院介助を行っている。</p>	<p>母体法人の協力医が、週2回、往診を行っている。他の医療機関への通院は、基本的には家族が行うが、困難な場合は職員が送迎している。更に、事業所が対応出来ない時は、母体法人の協力の下で支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者の体調の変化や、介護職員が不安な事などは、訪問看護師に相談している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した場合、本人の支援の方法に関する情報を、ご家族、病院関係者に提供している。また、面会時には医療関係者と話し合い、退院時の計画を本人・ご家族・職員で話し合いを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に看取りの指針を説明している。また、実際に看取りが必要な状態になった場合、再度、ご家族に説明し、書面による同意を得て、訪問看護ステーションと連携し、24時間体制で経過観察ができるようにしている。</p>	<p>現在、看取りの利用者があり、家族とも密に連絡を取り合い、職員、医師、訪問看護師によるチームで支援を行っている。夜間対応も、併設の「常夏の家」と連携を取りながら、手厚い支援に取り組んでいる。看取りに対する研修なども実施し、職員の資質向上、意志統一も図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>職場内で研修を行い、職員全員が対応できるように、定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に活かせる技術を身につけるように、マニュアルを基に取り組んでいる。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>定期的に防災訓練・避難訓練を行い、連絡体制、避難路や避難の手順などの確認を行っている。又、運営推進会議などを通して、協力を呼びかけている。</p>	<p>運営推進会議等で、平素から災害対策についての研修を行い、訓練を実施している。備蓄の必要性も認識している。近隣の市民センターとも相談する等、今後も、避難訓練等協力関係を築く取り組みがなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重し、プライバシーが確保できる職員としての、声かけ、接し方が出来るよう、日常業務の中で指導を行っている。	職員の平均年齢は若いですが、利用者に対して敬愛の念があり、理念である思いやりの介護を実践し、日常的に人格の尊重やプライバシーには配慮して、対応している。接遇の研修も行い、日々の支援に繋げるための努力が伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを大事にすることで、自己決定の支援へとつなげている。意思決定が困難な場合でも、表情や反応から思いを理解し、希望や願いを意図して引き出せるように、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の思いに沿った生活ができるように、一人ひとりに話を聞きながら、支援するようにしている。利用者の生活リズムを尊重し、ゆったりとした環境で、本人の意向や要望を聞きながら、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者の希望や好みを尊重し、季節感や清潔感のある、その人らしいおしゃれをして頂けるよう、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	定期的に利用者に希望を聴き、季節感のある行事食作りを一緒に行っている。職員と一緒に会話を楽しみながら、食事を楽しんで頂き、後片付けも、できる範囲でお手伝いして頂いている。	月に1～2回利用者と共に、おやつ等、好物を作ったり、作業に参加が困難な利用者には、つまみ食い専用皿を用意し、全員で楽しんでいる。時には、お弁当を用意し、庭でピクニック気分です食事をしたり等、様々な支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>職員が日々一緒に食事をする中で、利用者の嗜好や、嚥下状態の確認ができています。食事摂取量や、水分量を記録し、不足している場合は、栄養補助食品を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、本人の状態に合った口腔ケアを行っている。自分で口腔ケアを行っている利用者に対しても、定期的に職員が確認をし、口腔内の清潔を保持している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表を使用し、排泄パターンの把握をし、羞恥心や自尊心に配慮しながら、トイレ誘導を行っている。身体状態に合わせた個別支援を行い、失敗の減少に努めている。</p>	<p>日頃より、利用者一人ひとりの排泄習慣を把握し、オムツから布パンツへと改善した例もある、尿意があれば手を上げて貰い、失禁予防にも努めている。夜は其々に鈴や笛で音を変えて、ナースコールの代わりに職員に知らせ、スムーズな排泄誘導に繋げ、自立支援に取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便の確認と、適度な運動、水分補給を行っている。必要な場合は内服薬を服用していただいている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>予定を決めてはいるが、本人の体調や希望を考慮した支援を行っている。入浴時間も余裕をもっており、ゆっくりと自分のペースで入浴して頂いている。</p>	<p>入浴は、平均週2回位が多く、以前は午前中だったが、利用者の希望で午後に変更し、入浴時間もゆっくり取り、季節毎に、ゆず湯やしょうぶ湯等で楽しんでいる。入浴介助は、同性の職員が行うようプライバシーに配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの体調を考慮し、ゆったりと休憩や睡眠をとれるように支援している。常に清潔を心がけ、安らぐことができる居室にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師より、処方されている薬の説明を受けている。本人への手渡しを徹底し、飲み忘れのないよう確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	充実した一日が過ごせるように、レクリエーション等を行っている。一人ひとりの能力に応じて、できる事を行ってもらえるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日頃から、入居者の希望を把握し、買い物や散歩などの外出を心がけている。又、併設する小規模多機能事業所でのレクリエーションに参加するなど、自由に過ごしていただいている。	日常的に、買い物や隣の「常夏の家」や、時にはカラオケや将棋を楽しみに出掛けている。家族とは定期的に昼食を食べに出掛けたり、自宅へ行ったりしている。又、近隣の市民センターの図書館に出掛けたり、お弁当持参でお花見に出掛ける等、外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と話し合い、本人が小遣いを持つようにし、定期的買い物に出かけ、欲しい物を自分で購入していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>プライバシーに配慮しながら、希望に応じて、電話や手紙を出せるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ダイルーム等の共用スペースでは、利用者が気持ち良く過ごせるように、清潔に努めている。また、季節感のある掲示物や花等を飾り、居心地の良い空間になるよう努めている。</p>	<p>利用者が集まるダイルームは、海が見渡せ、民家も視界に無いため、大きな窓から光が注ぎ、心地良い場所になっている。共用空間は何処も掃除が行き届き、生活臭もない。玄関は出入りが自由で、畑での作物の世話や、自由に一人ひとりの時間を過ごす工夫がある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>日当たりのよいダイルームで、日向ぼっこをしたり、TVを見たり、海を眺めたりと、自由に過ごしていただいている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人、ご家族と話し合っ、自宅で使用していた物を自由に持ち込めるようにしている。利用者が大切にしていた物に囲まれた、居心地の良い居室作りを行っている。</p>	<p>利用前に本人、家族と話し合い、使い慣れた物を持参している。部屋の掃除が出来る利用者は、職員と共に行っている。又、自宅を処分した利用者には、引き揚げた家具等は、事業所の倉庫に本人が納得いくまで保管している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>個々の身体状況や能力に合わせ、家族、本人と相談しながら、家具の配置等を検討している。本人の能力を生かしつつ、安全に配慮した環境作りを行い、状態が変化した場合は、その都度、話し合いを行い、整備している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム蛍の家

作成日 平成29年3月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害時用の備蓄の必要性の認識をしている	必要性の認識のみでなく、最低3日分の食料・飲料水などの災害対策ができています	備蓄食料・備蓄品のリスト化と、保管場所の把握。	一年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。